

米軍基地普天間飛行場へのMV-22オスプレイ配備に反対する抗議決議

昨年6月日米両政府は、米軍普天間飛行場への米海兵隊垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイの配備計画を発表した。

MV-22オスプレイは、これまで開発段階から墜落事故が多発し、去る4月11日にもアフリカのモロッコで訓練中に2人が死亡、2人が重傷を負う墜落事故が発生。さらに6月14日にはフロリダ州でも訓練中に墜落し米兵5人が負傷しており、安全性についての疑念はますます強くなっている。

米側による環境審査の詳細データで公表されたオスプレイの飛行経路図からも、宜野湾市を中心に近隣市町村へ墜落する危険性がある。

本町では、普天間飛行場を離発着する米軍ヘリが日常的に住宅上空を飛行している。今回の配備計画で、本町上空に危険極まりないオスプレイが飛行すれば、現状にも増して町民に騒音被害、墜落の危険と恐怖を押し付けるものである。さらに、新聞報道によると、米空軍は嘉手納飛行場に特殊垂直離着陸輸送機CV-22オスプレイを2014年から配備する計画で、オスプレイの普天間飛行場及び嘉手納飛行場への配備計画は断じて容認できるものではない。

沖縄県民は、戦後66年余りにわたり、米軍の事件や事故に悩まされ、また、基地から派生する激しい米軍機の爆音で、肉体的、精神的な被害を受け、生活環境まで脅かされている。

日米両政府は、普天間飛行場全面返還合意から16年を迎え、未だに存在する普天間飛行場を即時閉鎖、無条件撤去し、県民の過重な基地負担の軽減を図るべきである。

よって、北谷町議会は、町民の生命・財産、安全を守る立場から、普天間飛行場へのMV-22オスプレイの配備計画に断固反対し、その計画の撤回を強く要求する。

記

- 1 普天間飛行場へのMV-22オスプレイ配備計画を断念すること。
- 2 普天間飛行場を即時閉鎖し、無条件撤去を実現すること。
- 3 嘉手納飛行場へのCV-22オスプレイ配備を行わないこと。

以上、決議する。

平成24年6月21日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

駐日米国大使 在日米軍司令官 在日米軍沖縄地域調整官 在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官 在沖海兵隊基地司令官

米軍基地普天間飛行場へのMV-22オスプレイ配備に反対する 意見書

昨年6月日米両政府は、米軍普天間飛行場への米海兵隊垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイの配備計画を発表した。

MV-22オスプレイは、これまで開発段階から墜落事故が多発し、去る4月11日にもアフリカのモロッコで訓練中に2人が死亡、2人が重傷を負う墜落事故が発生。さらに6月14日にはフロリダ州でも訓練中に墜落し米兵5人が負傷しており、安全性についての疑念はますます強くなっている。

米側による環境審査の詳細データで公表されたオスプレイの飛行経路図からも、宜野湾市を中心に近隣市町村へ墜落する危険性がある。

本町では、普天間飛行場を離発着する米軍ヘリが日常的に住宅上空を飛行している。今回の配備計画で、本町上空に危険極まりないオスプレイが飛行すれば、現状にも増して町民に騒音被害、墜落の危険と恐怖を押し付けるものである。さらに、新聞報道によると、米空軍は嘉手納飛行場に特殊垂直離着陸輸送機CV-22オスプレイを2014年から配備する計画で、オスプレイの普天間飛行場及び嘉手納飛行場への配備計画は断じて容認できるものではない。

沖縄県民は、戦後66年余りにわたり、米軍の事件や事故に悩まされ、また、基地から派生する激しい米軍機の爆音で、肉体的、精神的な被害を受け、生活環境まで脅かされている。

日米両政府は、普天間飛行場全面返還合意から16年を迎え、未だに存在する普天間飛行場を即時閉鎖、無条件撤去し、県民の過重な基地負担の軽減を図るべきである。

よって、北谷町議会は、町民の生命・財産、安全を守る立場から、普天間飛行場へのMV-22オスプレイの配備計画に断固反対し、その計画の撤回を強く要請する。

記

- 1 普天間飛行場へのMV-22オスプレイ配備計画を断念すること。
- 2 普天間飛行場を即時閉鎖し、無条件撤去を実現すること。
- 3 嘉手納飛行場へのCV-22オスプレイ配備を行わないこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年6月21日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当）
沖縄防衛局長